

地域デザインフォーラム・地域社会 目次

序章（はじめに）	本研究分科会の研究課題と中間報告.....	2
第1章	板橋区における高齢者福祉行政の現状と課題.....	4
第2章	要援護高齢者への施設入所サ - ビスについて.....	19
第3章	要援護高齢者への在宅福祉サ - ビスとボランティアの役割.....	34
第4章	健常高齢者の福祉行政について.....	42
第5章	健常高齢者の就労促進について.....	52
第6章	地域の福祉ネットワ - クについて “ケ - スタディ（高島平地区）”	60
第7章	高齢者と情報化社会.....	71
付	地域社会・研究分科会の研究員と研究経過等について.....	93

はじめに 本研究分科会の研究課題と中間報告 (東田 親司)

地域デザインフォーラムは板橋区のまちづくりを主題にしている。まちづくりはいうまでもなく住民が自らの居住する地域を住みよいところにしようとする様々なニーズを把握してそれを可能な限り実現していこうとすることである。

住みよいまちづくりには、都市計画、環境、産業振興といった社会・経済活動の基盤的分野での政策が欠かせないが、保健・福祉や教育といった住民の個人生活にかかわる分野での政策の充実も重要な課題である。とりわけ世界に例をみないスピードで進行しているわが国の少子高齢化社会の下では不安の少ない老後をすごすための保健、福祉等の社会保障分野の政策の充実が住民の個人生活分野での最大関心事項であり、国、地方公共団体を問わず早急かつ重点的な対応が求められている課題と考えられる。

また、こうした社会保障分野での需要はその財政負担が膨大であり、今後の少子高齢化の進展を考慮すれば後世代が負担に耐えられるよう、ニーズの高い政策を重点的に実施していくこと、そのために関連政策の成果や実績を評価して絶えざる見直しを実施していくことも不可欠の課題と考える。

地域デザインフォーラム・地域社会・研究分科会ではこうした状況認識の下に、「21世紀の福祉のまちづくり」をテーマにして、高齢者を中心とする福祉サービス行政の実態や成果を分析するとともに区民の関係行政への評価とニーズを把握し、区民の意向を踏まえた関係政策の見直しと充実の方向を検討することとして発足した。

本分科会の構成員である各研究員は、この高齢者福祉行政の担当者も一部含まれているが殆どはその他の行政分野の実務家であったり、大学での研究課題でも専門外であったりするいわば素人の集まりである。これまで平成12年9月の分科会発足以来ほぼ月1回参集して素人なりに個人的経験等も交えて要援護高齢者や健康高齢者への福祉サービスの実態把握と課題に関する意見交換、そして現場視察等を行ってきた。

共同研究は平成12年度と13年度の2カ年で行うものであり、まだ半年程度しか経過していないが、平成12年度中の研究成果に基づく研究員の個人的レベルでの問題意識や政策の方向性について中間的にとりまとめることとした。したがって今後分科会としての研究が進んでいけば、この中間報告に表れた素人なりの問題意識等は変更していく可能性がある。分科会としての問題提起や提言に至る前であっても、それらの源になるであろう構成員個々人の素人なりの問題意識等を中間的に整理しておくことにそれなりの意義があると考えたからである。

以下の各章に見られるように、現在のところ研究員の関心事項や問題意識等は高齢者福祉サービスの各分野をカバーしている。残された期間、区民の意識やニーズに関する調

査結果の分析なども行いつつ、引き続き共同研究を進め、できるだけ素人の初心を生かしつつ実体行政の改革・改善に役立てれるような結果となるよう努力していくつもりである。